

# NSRRが運転再開

## 炉内状況説明へ役割

福島第一の  
廃炉支援等

日本原子力研究開発機構は十七日、原子炉安全性研究炉（NSRR）の運転再開に向けた準備を進めている。NSRRは、原子炉安全規制委員会の新規制基準等に照らした審査の合格証を受領している。

今後、福島第一原子力



発電所使用されている燃料の反応度事故時挙動評価に関する実験を実施して規制判断の技術的根拠の整備拡充をはかるほか、炉の運転を通じての人材育成のための実習な

とも計画している。NSRRは、一ヶ月短時間の運転（ハルス運転）を行い、原子炉暴走事故反応度事故を模擬できる研究用原子炉で、反応度事故時における原子炉燃料の挙動について多くの実験を実施してきた。

東日本大震災の揺れで地盤沈下や原子炉建屋等のコンクリート部に微細なひび割れがみられたため、対策を講じて原子炉規制委員会の安全審査を受けていた。

## 減容化システム開発

### アウトモア 汚染土壌を大幅削減へ

除染研究を行うアウトモアは、このほど、除染時に大量に排出される放射能汚染土壌を、小さな粒子に付着しやすい放射性セシウムの特性を利用し、土壌をふるいにかけて放射能濃度の高い土壌と低い土壌に分ける減容化システムを開発した（写真）。この方法により、全体の七〇～九〇％を占める低濃度土壌を再度農地に戻すことが可能となるほか、現在問題となっている放射能汚染土壌の仮置場や中間貯蔵施設に保管する土壌そのものを抜本的に減らすことも期待できる。

減容化の原理と流れは、まず、土壌を水と混



ぜて、スラリー（泥水）にし、粘土塊細粒化剤を加えて、粒を細かくする。さらにスラリーを細かな網目で、セシウムの吸着していない低濃度（八割）と吸着している高濃度（二割）とに分離、高濃度側に排出される粘土土壌と処理水をろ過する。放射能の計測や被ばく管理などのシステムオペレーションは、ウクライナでも定評のあるサード

でも定評のあるサードパーティの活動は正直弱く、最近では中国などで組織が立ち上がるなど新たな動きもみられているが、本格的な活動はこれからという。欧州に比べると、企業外や学外活動に対する認識など、日本を含めて現実の力があるのも確かだ。

しかし、二〇一八年に開催されるIYNOC（原子力青年国際会議）を日本で開催するための活動を開始している。まず足場固めをしつかりしたい」と、具体的な目標を掲げた。IYNOCは、各国のYGNが一堂に会する国際会議で、過去に一回招致活動をしたが招致

原子力分野の技術や経験の継承にあたって、とくに若手人材の育成は重要課題だ。幅広い視野で考えることのできる人材が求められているが、現実には仕事外、学外の連携が難しい状況もある。そこで日本原子力学会の原子力青年ネットワーク連絡会（YGNJ）の会長をつとめる東京工業大学の西山潤助教に、今後の若手世代の連携等の取り組みについてうかがった。

東京工業大学の助教に就くことが決まり、引越したばかりの西山潤助教は、五重の壁が壊れるなどとは考えもしなかった。原子力を専攻する身として、大きなショックを受けた。



西山 潤氏  
東京工業大学 助教  
YGNJ 会長

## 視野を広げる活動を

### 若手世代の連携深め

IYNOCの  
日本開催も

がりをもち始め、重要な人材問題を切り口に議論を深める活動などを積極的に進めてきた。

そんな活動の先には、国際的な連携という課題もある。YGNという組織はもとより欧州中心に発足したこともあり、原

# TENEX

## Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services



株式会社テネックス・ジャパン  
TENEX-JAPAN Co.,

東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F  
(Tel):03-5776-1511 (Fax):03-5776-1512 (E-mail):info@tenex.co.jp